

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences, GEAHSS）・日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会・お茶の水女子大学・東京大学の共同で、「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」を実施する運びとなりました。2018年6月頃から実施し、その分析結果を第2回目のGEAHSSと日本学術会議との年次共同シンポジウム（2019年2月予定）で報告して、政府への提言等に生かせればと考えております。

日本は理系、人文社会科学系ともに、女性の研究者割合がOECDの中でも際立って低いことはご存知の通りです。人文社会科学系においても、研究者の実態を踏まえ、ニーズを明らかにして、政策にアピールしていければと思っております。

ご存知のように、理系では、男女共同参画学協会連絡会を2002年に立ち上げて以来、4～5年ごとにこうした大型調査をされてきました。<http://www.djrenrakukai.org/> にその成果をみるることができます。その成果は、科学技術・学術政策にも影響を与えてきました。それもあって、本調査項目は、理系が行ってきたものをベースにしなが、理系との比較を可能にするような人文社会科学系向けの項目を付加いたしました。

調査の内容は、教育経験、仕事内容・仕事の履歴、仕事環境・研究環境、家庭との両立、今後のキャリア展望、研究職の男女共同参画に関する意見などに関する事柄です。

本調査は、WEB上でお答えいただけるように設定し、GEAHSS加盟学会および人文社会科学系の学会にご依頼して、会員の方々にご回答を呼びかけていただいております。ご回答は任意かつ無記名です。ご回答結果の集計・分析はすべて計量的に行い、結果の公表に当たってご回答者個人が特定されることはありません。

なお、本調査の企画・実施は下記6名の調査実施企画委員が担当しております。各委員は日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会もしくはGEAHSS加盟学協会に所属しております。今後も調査結果の分析・公表等については、日本学術会議とGEAHSSの2つの組織が協力して実施していければと考えております。

本調査の趣旨にご理解を賜り、何卒ご回答にご協力をいただけますよう、よろしく願いいたします。

調査実施企画委員

永瀬 伸子（お茶の水女子大学教授、日本経済学会、日本人口学会）

上田 貴子（早稲田大学教授、日本経済学会）

仲 真紀子（立命館大学教授、法と心理学会、日本心理学会、日本発達心理学会）

本田 由紀（東京大学教授、日本教育学会、日本教育社会学会、日本社会学会）

中西 祐子（武蔵大学教授、日本社会学会、日本教育社会学会）

大多和 直樹（帝京大学教授、日本教育社会学会）

調査実施主体

日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会（委員長：永瀬伸子）

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（運営委員長：井野瀬久美恵

甲南大学文学部教授、日本学術会議連携会員、第一部総合ジェンダー分科会委員）

お茶の水女子大学

東京大学

連絡先：geahss.office@gmail.com

【回答時の注意点】

- ・実数を記入する質問は、回答欄内に半角数字でお答えください。仕様上、回答欄が横長になっています。
- ・回答内容によって、質問項目が増減します。
- ・画面上部と下部にある「>」を推すと次のページへ、「<」を押すと前のページへ移動します。
- ・「>>」を推すと最後のページへ、「<<」を押すと最初のページへ移動します。
- ・最後のページでは画面下部の「送信」ボタンを押してください。うまく送信できない時は、赤い文字で表示された質問を見つけてご回答下さい。
- ・回答には20分程度かかります。書きかけのまま12時間経過すると、送信ができなくなることがあります。その場合はページを再読み込みして、最初から改めてご回答ください。

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

1. 2018年4月1日時点の年齢（歳）を選択してください。（必須）*

16歳未満



（16歳未満または90歳以上の場合）年齢を記入して下さい。（半角数字で記入）

2. 性別をお答えください。（自認）*

- 男
- 女
- わからない・その他

2-1. また、次のうち、よりあてはまるものをお答え下さい。*

- 日本人
- 特別永住者
- 外国人
- わからない・その他

3. 現在の専門分野について、次の中からもっとも近いものを1つお選びください。（必須）*

- 文学・文化系
- 史学系
- 哲学系
- 言語学系
- 心理学系
- その他人文科学系
- 法学系
- 政治学系
- 経済学系
- 商学・経営学系
- 社会学系
- その他社会科学系
- 教育学系

- 生活科学系
- 芸術系
- その他

4. 所属する学協会をお答えください。(学協会名冒頭の「日本」は省略、アイウエオ順)(必須、この欄は2018年3月時点でGEAHSSに加盟している学協会の一覧です。他学会の場合は具体的にその他に記入ください)(複数回答可) *

- 無所属
- アメリカ文学会
- 医学哲学・倫理学会
- 英語学会
- 科学技術社会論学会
- 科学基礎論学会
- がん看護学会
- 教育学会
- 教育行政学会
- 教育社会学会
- 経済学会
- 経済理論学会
- 言語学会
- 国際ジェンダー学会
- 国際服飾学会
- ジェンダー史学会
- ジェンダー法学会
- 社会学会
- 社会教育学会
- 社会言語学会
- 社会心理学会
- 社会福祉学会
- 社会文学会
- 人口学会
- 心理学会
- 水産工学会
- スポーツ教育学会
- 村落研究学会
- 地域デザイン学会
- 地理情報システム学会
- 哲学会
- 東南アジア学会

- 日本語学会
- 認知・行動療法学会
- 認知心理学会
- 農村生活学会
- 犯罪社会学会
- フェミニスト経済学会
- 文化人類学会
- 法哲学会
- 法と心理学会
- 北東アジア学会
- マスコミュニケーション学会
- 流通学会
- 倫理学会
- その他

次のページにお進みください。

連絡先 : geahss.office@gmail.com

Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

あなたの教育について伺います

5. あなたは現在教育機関に在学中ですか。(必須)*

- 在学中
- 在学中でない

5.1 在学中の方は現在在学している教育機関を、在学中でない方は最終学歴をお答えください。(必須)*

- 大学院博士課程
- 大学院修士課程
- 大学
- 短大
- 高専
- 専修学校
- 高校
- その他

(16歳未満または90歳以上の場合) 年齢を記入して下さい。(半角数>字で記入)

5.3 博士および修士学位の取得状況と取得年齢をお答えください。(複数回答可)(必須)

- なし
- 課程博士
- 論文博士
- PhD, MD
- 修士
- その他

最上位資格取得年齢（歳）

16歳未満



(16歳未満または90歳以上の場合) 年齢を記入して下さい。(半角数>字で記入)

5.4 あなたは仕事（現在ついている仕事以外を含む。運転免許は除く）に関連する資格を取得済みもしくは取得見込みですか。(必須)*

- 取得済み
- 取得見込み
- なし

5.4.1 取得済みもしくは取得見込みの場合、最も重要な資格を1つお答えください。*

- 臨床心理士
- 産業カウンセラー
- 専門社会調査士
- 公認会計士
- 税理士
- 弁護士
- 司法書士
- 行政書士
- 社会保険労務士
- 教員免許
- 幼稚園教諭・保育士免許
- 図書館司書
- 博物館学芸員
- 社会福祉士
- 精神保健福祉士
- 販売士
- 簿記
- 証券外務員
- ファイナンシャルプランナー
- 宅地建物取引主任者
- 中小企業診断士
- 秘書検定
- 管理栄養士
- 理学療法士
- 看護師
- 医師
- 介護福祉士
- 建築士

情報処理技術者

その他

5.5 博士学位取得済みの方に伺います。大学院修士課程に入学後、博士学位を取得するまでに合計何年かかりましたか（休学・留学等を含む）。*

5年以下

6年

7年

8年

9年

10年

11年

12年

13年以上

6. 学費を賄うための奨学金について伺います。

6.1 日本学生支援機構または日本育英会の奨学金を在学中に受けていましたか。(必須) *

はい

いいえ

6.2 日本学生支援機構または日本育英会以外の奨学金を在学中に受けていましたか。(必須) *

はい

いいえ

次のページにお進みください。

連絡先 : geahss.office@gmail.com

Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.